

【児童へのお話】

3月もいよいよ中旬に入ります。この時期は、冬を越して起きた虫などの生き物が土から出てきたり、桃の花のつぼみが開き始めたりする頃と言われています。正門わきの桜のつぼみも、ほんの少しずつ膨らんできています。寒かった先週と比べ、今週はだいぶ温かくなってきます。体調を整え、残りの日々を元気に過ごしましょう。

さて今日は、「人の感じる幸せ」についてお話しします。

日本では現在、昔に比べると働いてもらえるお金が多くなり、生活が豊かになっています。でも、日本に暮らしている人が幸せだと感じる「生活満足度」は、70年以上前の、今よりもっと貧しかった日本人とほぼ変わっていない、という調査結果が出ています。具体的に言うと、お金をたくさん持っていることや便利な道具を使うこと、偉くなることなどが、「ああ、自分は幸せだなあ」と感じることに繋がっていない、ということです。このことを不思議に思った大学の教授が、「幸せ」についての研究をしたところ、4つのポイントがあることが分かったそうです。

自分が幸せに感じるための4つの言葉を、覚えてみてください。

「やってみよう」 なんでもまずはやってみること。とても大切なことですね。

「ありがとう」 誰かに感謝して、みんなに親切にできること。いつも口にしたいですね。

「なんとかなる」 前向きな気持ちで、物事を楽しんでみる。失敗は成功のもとですね。

「ありのままに」 できない理由を、人に押し付けないこと。人と比べるものではないですね。

ちなみに、校長先生はいつも、「なんとかなるさ」と考える傾向があります。つらくてもこう考えることで、実際に少しだけ心が軽くなり、前向きになれるからです。これらの考え方は、すぐに身に付くものではありませんが、口に出すと心に染み込むものです。

もうすぐ皆さんは進級、進学して、新しい場所、新しい友達や先生との生活がスタートします。時には「イヤだな」「つらいな」と思うこともあるでしょう。そんなとき、この4つの言葉を思い出して、唱えてみてください。校長先生の大切な番町のみなさんには、これからきっと楽しいことが待っている、と思うことができる、心豊かで幸せな人になって欲しいと思います。今日は、「人の感じる幸せ」について、お話ししました。

【本講話について】

卒業式まで、残すところ11日間の学校生活となりました。この頃、スギ花粉が非常に多くて辛いのですが、この3月の季節の移り変わりをしっかりと目と心に焼き付け、4月を待ち望む子どもたちであって欲しいと願っています。

今日の朝礼では以前、保護者会全体会でお伝えした「幸せになるための4つの因子」についてお話ししました。気や心の持ちよう、自分を取り巻く状況はよくも悪くもなるものです。番町の子どもたちが、いつも前向きな気持ちで他者と協働して進んでいけるよう、これからもご支援をお願いします。